

ドリームキッド初の長編ドキュメンタリー映画 『被爆樹(仮題)』製作のお知らせ

原爆投下後、
人々に親しま
れていた大ク
スノキは焼き
つくされた地
に枯れたまま
立っていた。



戦後 70 年が経
ち衰えた被爆
ソメイヨシノ。
広島の木が医
生が治療をつづ
ける。

映画の企画・製作のドリームキッドは、初の長編ドキュメンタリー映画を製作致します。

「被爆樹」とは、1945年の広島、長崎での原爆投下を生き伸びた木のことであり、本映画では、広島の木とそれを守る人々に焦点をあて、製作していきます。本映画の監督は、漫画家・中沢啓治氏の被爆体験の証言を記録したドキュメンタリー映画『はだしのゲンが見たヒロシマ』(2011)が初監督作品となった石田優子監督です。

【被爆樹について】

被爆樹は、1945年の広島、長崎での原爆投下を生き伸びた木のことであり、幹にやけどの傷を負うもの、地上部は焼けながらも土の中に残った根から芽を出し再生したものなどがあります。

広島市では爆心地を中心におおむね半径2km以内の56箇所に、約170本が「被爆樹木」として認定登録されています。半径2km以内は建物の全焼区域であり、多くの木が焼き尽くされました。

【企画意図】

被爆樹木はあるものは幹に傷を残し、あるものは爆心地に向かって幹を傾かせ、また枝をうねらせながらそれぞれに原爆の記憶を表しています。戦後 70 年が近づき、戦争体験者、被爆体験者の高齢化が進み、その証言を直接聞き記録に残すことができる時間の限界が迫っています。人間より長く生きる樹木に、もしも人々の記憶や思いを託すことができれば、次の世代、さらにその次の世代へと未来に向けた大切なメッセージを届けることができるはず。本映画は、原爆が投下されてから今現在までの広島の人や街の記憶、証言を樹木を中心にして記録し、見つめようとするものです。それは声を失った多くの人や生き物たちを代弁し、今を生きる私たちへ戦争とは何か、原爆とは何かを伝えており、私たちの未来へ希望をあたえてくれる存在でもあります。樹木からの声は言葉を越え、世代を越えて世界中の人々の心に届くと信じて本映画の企画をしました。

【被爆樹(仮題)の概要】

監督：石田優子

プロデューサー：大和田廣樹

撮影：加藤孝信

製作：ドリームキッド

【参考資料】

『広島の木に会いに行く』

(石田優子著 / 偕成社刊 / 2015年6月発売)

【ホームページ】

<http://www.dreamkid.co.jp>

www.facebook.com/hibakuju



《本件に関するお問い合わせ》

(株)ドリームキッド 担当:アロー・ジュリアン julian.allot@dreamkid.co.jp 050-6860-5193